赤川先生の思い出

M⑮　河野　誠

赤川浩爾先生とのご縁は、下宿がたまたま同じだった 1 年先輩の岩崎光紀氏が赤川先生の研究室に所属されていたことから、私も赤川研究室に入れていただいたのがそもそもの始まりで、学部時代は岩崎氏と一緒に上下屈曲管の流動特性の実験をするように指示されました。実験装置の屈曲部を作るために電機会社から、不要なサークル型蛍光管を寄付していただき、この管に透明なビニールテープを巻きつけて割れないように補強しておいて、切断部に細いニクロム線を巻きつけて通電し、発生する熱応力で蛍光管を割るという名人芸を駆使して屈曲管の半円部を作成したことが印象に残っています。

修士課程の研究テーマは「並列蒸発管系の流量分配と流動の安定性に関する研究」で、修士 2 年の西村雅晴氏と一緒に研究することになりましたが、赤川先生はその後すぐアメリカへ 1 年間行ってしまわれたので、坂口忠司先生と沢井洋征助手(現姓：端野)にご指導していただきました。赤川先生からは「これは有意義な研究なので頑張るように」と、お手紙の中で何度か励まして頂きました。

1 年後に西村氏は卒業されたので、私は新規に配属された学部学生とともに研究を継続しました。赤川先生が帰国されるまでに、ある程度の結果を出したいと頑張ったおかげで流動現象のメカニズムの理解も進み、流量脈動が発生する条件なども次第に明らかになってきました。

理論についてもある論文を参考に試行錯誤しているうちに逸走現象が発生する判別条件を導くことができ、これが実験結果ともよく一致することが判明しました。赤川先生のご帰国後、実験結果とこの理論解析結果をまとめて修士論文を作成しました。

卒業後、この修士論文を日本機械学会へ投稿するよう赤川先生からお話しがあったので、先生から会社の上司に話をしていただき、何度か神戸大学へ出張して赤川先生、坂口先生のご指導を受けて論文にまとめ、日本機械学会で論文講演しました。この論文が機械学会賞を受賞したことは嬉しいことでした。

1978 年ごろ社内に海外留学制度ができ、私にも米国の MIT(マサチューセッツ工科大学)に留学する機会が与えられました。滞米中に赤川先生が研究室の皆さんとマイアミで開かれた国際学会に来られたので、私もその学会に参加させていただき、同じ時間を過ごせたのは楽しい思い出です。

このように、赤川先生と御縁ができたおかげで、色々と貴重な経験をさせていただく結果となり、心より感謝している次第です。

併せて、赤川先生の多くの御著書にも色々とお世話になったことも付け加えさせていただきます。

2011 年に香枦園の介護施設を訪問してお元気そうな赤川先生にお会いし、楽しいひとときを過ごさせていただいたのが最後の思い出となりました。

赤川先生、大変お世話になり有難うございました。安らかにお眠りください。

（ 終 ）

追悼文受付日：平成 29 年（2017 年）2 月 3 日　赤川先生－30